

<b>授業科目名：</b> リサーチキャンプ	<b>単位数：</b> 2単位	<b>担当教員名：</b> 指導教員
<b>専攻・コース名</b> 博士後期課程共通科目		
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <p>教員の指導のもと、英語（またはそれ以外の外国語）を用いて、自らの研究成果を適切な手段かつ効果的に発表できるようになることが目標である。技術的には、当該分野の国際学会で用いられる論文執筆マニュアルを習得し、レジュメや論文、研究ノートを作成するほか、口述による望ましい発表能力、ビジュアル・エイドの効果的な使用法や態度、及び、ポスターでの効果的な提示方法について練習し、習熟する。自己の研究成果についての質疑応答能力を鍛える他、他者の研究成果についても、客観的かつ論理的な思考にもとづいて、積極的にディスカッションに関わる訓練を行う。これを通じて、研究者としての討論能力、態度を獲得する。また、研究交流によって得られた、自己のテーマに関する研究の方向性を、リサーチキャンプで得た他者からの評価をもとに、指導教員とともに今後の研究計画に活かす。</p> <p><b>到達目標：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究成果に基づいて、発表内容をまとめることができる。</li> <li>2. スライドあるいはポスター等の発表資料を作成できる。</li> <li>3. 発表会において内容を明快かつ論理的に説明できる。</li> <li>4. 質疑応答において、疑問点を理解し的確に説明できる。</li> <li>5. 英語で必要なコミュニケーションをとることができる。</li> <li>6. 自己の研究成果について客観的な進捗状況を判断でき、今後の指針をたてることできる。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b> <p>研究課題に基づき、外国大学との研究交流を行う。セミナーや研究発表、それに対するディスカッションなどを行う。外国大学への派遣と外国大学の招聘がある。キャンプ前のオリエンテーション、研究指導も行う。</p>		
<b>授業計画</b> <b>事前準備</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションを行い、科学技術分野の研究発表に必要な技術を習得する。</li> <li>・可能な限り、予想される質問に対する模擬解答を準備する。</li> <li>・研究課題に関するトピックをプレゼン形式で紹介する模擬練習を行い、それに関するディスカッションを他大学院生と教員を交えて行う。</li> <li>・模擬演習の成果を、参加した教員や他の院生のフィードバックをもとに再構成する。</li> </ul> <b>リサーチ・キャンプ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプとして外国大学に赴き、もしくは外国大学から教員や大学院生を招へいし、合同でセミナーや研究発表等を行い、それに対するディスカッションを行う。</li> <li>・総括として、キャンプでのセミナー・研究発表・ディスカッションから得た課題について、今後の研究への反映について議論する。</li> </ul> <b>事後指導</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と、リサーチキャンプでの成果について討議し、教員による形成的評価をもとに、今後の履修・研究指針をたてる。</li> </ul>		

## テキスト

なし。適宜資料を配布する。

## 参考書・参考資料等

各教員が必要に応じて紹介するが、基本的な一般参考書としては、以下のものが推薦できる。

1. *The Chicago Manual of Style*, Publisher: University Of Chicago Press; 15th edition , 2003.
2. *Publication Manual of the American Psychological Association*, Publisher: American Psychological Association (APA); 6th edition, 2009.
3. *MLA Handbook for Writers of Research Papers*, Publisher: Modern Language Association of America; 7th edition, 2009.
4. *The Craft of Scientific Presentations*, by Michael Alley. Springer-Verlag, New York, 2003. Good information, current technologies.
5. *A Handbook of Public Speaking for Scientists and Engineers*, by Peter Kenny. Published by Adam Hilger, Ltd., Bristol, 1983.
6. *The Visual Display of Quantitative Information*, by Edward R. Tufte. Graphics Press, Cheshire, CT, 1983.
7. *The Complete Academic - A Practical Guide for the Beginning Social Scientist*, by Mark P Zanna and John M. Darley (eds.); Random House, New York, 1987.
8. Woolsey, John D. (1989) Combating poster fatigue: how to use visual grammar and analysis to effect better visual communications. *Trends in Neurosciences*, **12**(9):325-332.

## 学生に対する評価

レポート，授業参加状況，キャンプでのプレゼン・討論等の状況から総合的に評価する。  
評価は新潟大学の教員が行うが、必ず、リサーチキャンプの参加大学の相手側の教員の参考評価を得て、研究内容と研究発表能力の別に分けて、実質的かつ形式的な評価指導を行う。